2018 年 3 月 22 日
産業能率大学スポーツマネジメント研究所

五輪前後に（事前：１万人＋事後：１千人）アンケート調査を実施

平昌冬季五輪の競技に関する調査

（調査期間：五輪前 2018 年 1 月 31 日～2 月 2 日／五輪後 2018 年 2 月 26 日～28 日）

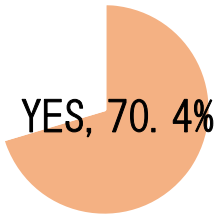
▼部門別ランキング（競技）

順位	観戦率	満足度
1 位	フィギュアスケート	
2 位	カーリング	スピードスケート
3 位	スピードスケート	カーリング
4 位	スキージャンプ	スノーボード
5 位	スノーボード	ショートトラックスケート

順位	関心度上昇	自分でもやってみたい競技
1 位	カーリング	
2 位	スピードスケート	スノーボード
3 位	スノーボード	フィギュアスケート
4 位	フィギュアスケート	スピードスケート
5 位	ショートトラックスケート	スキージャンプ

▼意識調査

ルールが分からないまま視聴した競技があった



（ご参考）2020 年東京五輪関連

順位	期待する競技	（主な理由）
1 位	体操	「金メダルラッシュに期待したい」（福岡県 50 代男性） 「30 代に突入する絶対王者内村選手がどこまでいけるか」（山形県 30 代男性） 「白井選手に新技で金を取ってほしい」（熊本県 40 代女性）

■この資料に関するお問い合わせ先
産業能率大学 企画広報部企画広報課　　電 話：03-3704-9040 ／ E-mail：koho@hj.sanno.ac.jp

産業能率大学スポーツマネジメント研究所（所長：情報マネジメント学部教授 中川直樹）は、2月9日～25日まで開催された平昌冬季五輪の前後に「平昌冬季五輪に関する調査」を実施しました。事前調査は1月31日から2月2日まで1万人を対象に平昌冬季五輪実施競技の「関心度」を尋ね、事後調査は2月26日から28日まで事前調査の回答者から1千人を抽出し、「観戦率」や「満足度」などを追跡調査しました。調査はいずれもインターネット調査会社を通じて実施しています。

（※平昌冬季五輪の日本代表選手に関しては2018年3月13日に「平昌冬季五輪の選手に関する調査」を発表しています。）

調査の結果、**「観戦率」**と**「満足度」**の1位は**フィギュアスケート**でした。男子では羽生結弦選手が金メダル、宇野昌磨選手が銀メダルを獲得。女子では宮原知子選手が自己ベストの演技で4位に入賞するなど日本勢の活躍が目立ちました。大会前後で大きく関心度が上昇した**「関心度上昇」**と**「自分でもやってみたい競技」**は**カーリング**が1位になりました。カーリング女子の活躍により競技の視聴や実技に対する関心が高まっています。また、意識調査では「ルールが分からないまま視聴した競技があった」という回答が7割を超えました。

調査の設計・分析は、過去の五輪（北京、バンクーバー、ロンドン、ソチ、リオ）でも調査を実施した同研究所の小野田哲弥研究員（情報マネジメント学部准教授）が担当しました。本調査について小野田研究員は「注目度(Attention)の高い五輪の効果で、明らかに関心度(Interest)が上昇した競技がある。しかし、やってみたいという欲求(Desire)が芽生えても、記憶(Memory)が鮮明なうちに実施(Action)まで移しにくいのが冬季種目の特徴。競技レベルのさらなる向上には、社会的関心を持続させ、競技者の裾野を広げることが不可欠。そのための施策が求められるだろう」と話しています。

調査概要

調　査　方　法　：インターネット調査

調　査　期　間　：①事前調査：1月31日～2月2日／②事後調査：2月26日～2月28日

調　査　対　象　：①20代～60代の男女 計1万人／②20代～60代の男女　計1千人（①から1千人を抽出して追跡調査）

※サンプル割付（地域・年代・性別）は、総務省統計局「人口推計（2016年10月1日現在）」（2017年4月14日公表／調査時最新データ）に準拠

各部門について　：

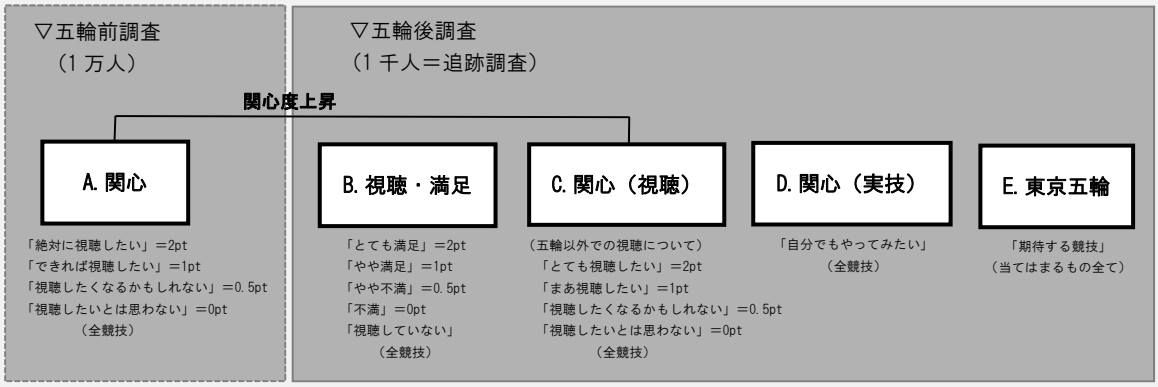
観　戦　率　＝　平昌冬季五輪で実施された各競技について「視聴していない」と回答された以外の比率。

満　足　度　＝　「視聴した」競技の満足度を4択で尋ね、その構成比（%）に以下の係数をかけて加算した合計値。①「とても満足」＝2pt、②「やや満足」＝1pt、③「やや不満」＝0.5pt、④「不満」＝0pt。

関心度上昇　＝　事後調査「関心（視聴）」－事前調査「関心」より算出。

自分でもやってみたい競技　＝　平昌冬季五輪で実施された各競技について「自分でもやってみたい」と回答された比率。

▼分析フレーム



◆データ集（各部門ランキング）

【観戦率】

1位 フィギュアスケート
2位 カーリング
3位 スピードスケート

順位	競技名	%
1	フィギュアスケート	84.7
2	カーリング	80.0
3	スピードスケート	78.6
4	スキージャンプ	69.2
5	スノーボード	62.0
6	ショートトラックスケート	56.2
7	ノルディック複合	52.6
8	フリースタイルスキー	34.4
9	アルペンスキー	31.4
10	クロスカントリースキー	31.1

※平昌冬季五輪実施競技のうち「視聴していない」を除いた比率。（録画やダイジェストを含み、大会期間を通じて一度でもその競技が視聴された比率。）

【満足度】

1位 フィギュアスケート
2位 スピードスケート
3位 カーリング

順位	競技名	pt
1	フィギュアスケート	123.9
2	スピードスケート	119.2
3	カーリング	113.5
4	スノーボード	73.0
5	ショートトラックスケート	69.9
6	スキージャンプ	64.2
7	ノルディック複合	52.7
8	フリースタイルスキー	34.8
9	アルペンスキー	29.3
	クロスカントリースキー	29.3

「視聴した」競技の満足度を4択で尋ね、その構成比（%）に以下の係数をかけて加算した合計値。①「とても満足」＝2pt、②「やや満足」＝1pt、③「やや不満」＝0.5pt、④「不満」＝0pt。

【関心度上昇】

1位 カーリング
2位 スピードスケート
3位 スノーボード

順位	競技名	pt
1	カーリング	＋46.2
2	スピードスケート	＋28.3
3	スノーボード	＋20.9
4	フィギュアスケート	＋20.4
5	ショートトラックスケート	＋18.1
6	アイスホッケー	＋6.4
7	フリースタイルスキー	＋3.2
8	ノルディック複合	＋1.2
9	アルペンスキー	＋0.94
10	バイアスロン	＋0.90

※事後調査「関心」－事前調査「関心（視聴）」より算出。

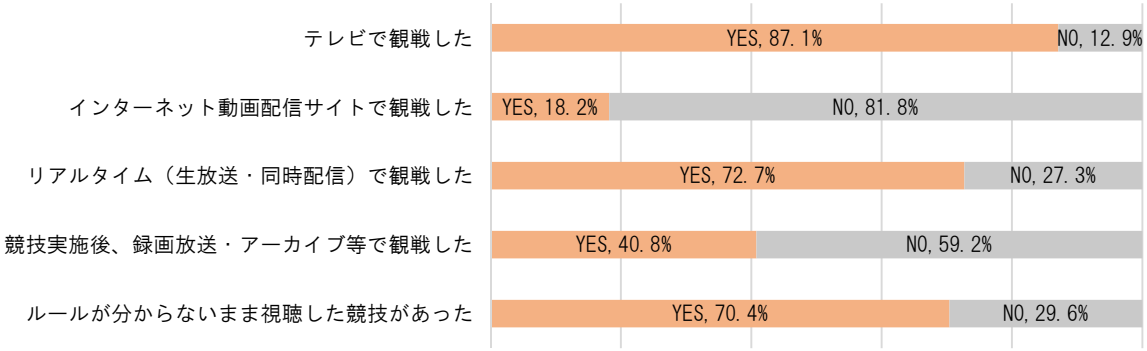
【自分でもやってみたい競技】

1位 カーリング
2位 スノーボード
3位 フィギュアスケート

順位	競技名	%
1	カーリング	31.5
2	スノーボード	13.1
3	フィギュアスケート	8.3
4	スピードスケート	5.9
5	スキージャンプ	4.1
6	アイスホッケー	4.0
	アルペンスキー	4.0
8	ボブスレー	3.7
9	クロスカントリースキー	2.9
10	ショートトラックスケート	2.1

※平昌冬季五輪で実施された各競技について「自分でもやってみたい」と回答された比率。

◆意識調査結果



（ご参考）2020 年 東京五輪関連

【2020 年東京五輪で期待する競技】

1 位 体操　　2 位 卓球　　3 位 柔道

順位	競技名	%	（主な理由）
1	体操	47. 3	「金メダルラッシュに期待したい」（福岡県 50 代男性） 「30 代に突入する絶対王者内村選手がどこまでいけるか」（山形県 30 代男性） 「白井選手に新技で金を取ってほしい」（熊本県 40 代女性）
2	卓球	42. 6	「男子も女子も史上最強と言ってよい有力選手がそろっている」（東京都 20 代男性） 「有望な若い選手たちの活躍に期待している」（北海道 40 代男性） 「メダルを期待できる選手が多いので」（大阪府 40 代女性）
3	柔道	41. 7	「全階級制覇を目標に頑張ってほしい」（北海道 60 代男性） 「お家芸として連日メダルラッシュを期待している」（熊本県 40 代女性） 「面白い試合内容が期待できそう」（佐賀県 30 代女性）
4	水泳 競泳	40. 4	「試合内容が楽しめそうだし、メダルが期待できそう」（佐賀県 30 代女性） 「新記録を更新し続けている選手たちに期待」（青森県 60 代女性） 「有望な選手が力をつけてきているので」（兵庫県 60 代女性）
5	野球	38. 9	「オリンピックで野球が復活するので興味がある」（青森県 30 代男性） 「日本の野球がどこまで強いか知りたい」（広島県 50 代女性） 「日本の国民的スポーツだから」（兵庫県 30 代男性）
6	レスリング	33. 6	「レベルの高い技の応酬が見たい」（和歌山県 30 代男性） 「これまで多くのメダルを獲得しているので期待している」（北海道 40 代男性）
7	マラソン	30. 4	「久しぶりに日本新記録が更新されたので」（大阪府 50 代男性） 「日本人選手に金メダルを取ってほしい」（埼玉県 40 代女性）
8	バドミントン	27. 4	「ラリーになると盛り上がる」（北海道 40 代男性） 「リオ同様に金メダルを獲ってほしい」（愛知県 60 代女性）
9	陸上競技 トラック	24. 5	「素晴らしいバトンパスのリレーを見たい」（宮城県 60 代女性） 「9 秒台が出るか」（京都府 50 代女性）
10	サッカー	22. 5	「スター選手の活躍が見られる可能性があるので」（東京都 60 代女性） 「応援しているチームの選手が出場して活躍してほしい」（北海道 40 代男性）

※2020 年東京五輪実施競技のうち「期待している」と回答された比率。（当てはまるもの全て）

以上